

政府は新型コロナウイルスワクチンの接種を証明するスマートフォン向けアプリを公開した。スマホ上で簡単に接種証明を表示できる仕組みで20日から利用できる。どのように使うのだろうか。

アプリの正式名称は「新型コロナウイルス接種証明書アプリ」。iPhone（アイフォン）ならアップストア、アンドロイドならグーグルプレイから無料でダウンロードできる。

接種証明書は国内用と海外用の2種類ある。国内向けは飲食店やイベントで接種を証明する際に

接種証明アプリ、20日から

マイナカード必須

使用する。海外向けは海外渡航の手続きや渡航先で隔離期間の短縮といった水際対策の緩和を受けるときに使う。

下の情報も読み取る。最後に接種した自治体を選択する。職域接種をした人は接種券を発送した自治体を選ぶ。

利用にはマイナンバーカードが必要になる。政府が運用するワクチン接種記録システム（VRS）のデータはマイナンバーにひもづいているからだ。マイナンバーカードを持っていない人はアプリを使えない。

20〜30秒ほどでアプリ上でQRコード付きの接種証明書が発行される。飲食店などがQRコードを読み取ると、氏名や生年月日、打ったワクチンの種類やロット番号、接種日などの情報が確認できる。海外用にはさらに国籍や旅券番号の情報が追加される。

アプリの指示にしたがってマイナンバーカードの情報を読み取る。カード取得時に設定した4桁の暗証番号を入力する。海外用は追加でパスポート

政府は11月、感染拡大時でも接種済みであることを証明すれば飲食店やイベントの行動制限を緩和する。例えば緊急事態宣言時でも2回の接種を済ませたと証明できれば5人以上の会食が認められたりイベントの人数制限の対象外になったりする。11月時点ではアプリの実用化が間に合わず、政府は接種時にもらう紙の接種済証を写真撮影した画像やコピーの利用を認めていた。政府のアプリに先行し東京都や札幌市といった自治体が独自にアプリを導入していた。

マイナンバーカードの交付率は現在4割ほどで普及が課題となる。